

6 口の中の容積をなるべく大きくする。

口の中をなるべく大きくして音を出すようにしてください。空気を水に例えると、口の中にいっぱい水を溜めた状態で、深呼吸をしながら吹き吸いをするというイメージです。

7 口元が緊張して細くならないように注意する。

口元をギュッと締めて演奏しないようにしてください。口元をギュッと締めると薄っぺらなキンキンとした音になります。大きな音も出ません。ですから細心の注意を払ってください。

練習途中で口元が緊張していると感じたら、一旦口からハーモニカを離して唇をほぐしてください。このようなとき私（中島）は、ウォームアップ A の NO3 を繰り返し練習します。この NO3 は唇の緊張をほぐすために作った一美塾オリジナルのスケール練習です。

8 全体的なフォーム

全体的なフォームは言葉では表現するのは難しいので、合宿時に説明します。

第3 マイクを持たないで演奏するときにはどんな曲を選ぶか

なるべくテンポのゆるやかな曲を選びましょう。テンポが速く音数の多い曲はなるべく避けた方が無難です。

その理由は、生のハーモニカ演奏を聴きたいという人のほとんどが、素朴なハーモニカの音色を聴きたいと思っています。昔、父親が吹いていたあの頃の懐かしい音が幼い頃の自分と重なっているのです。いわばハーモニカの音色は父母と共に生きた証なのです。そういう人の前で音数が多くテンポの速い曲を演奏しても、そんな音楽を聴きたいんじゃない！！と言われるでしょう。またこれらの曲はハーモニカの持つ特性を十分に引き出すことができません。ハーモニカは音数が比較的少なくてビブラートや音の強弱で表現するところに人を引き付ける魅力があります。またハーモニカによるデュオ演奏はソロ演奏以上に音の広がりを感じさせます。

生演奏に適する曲は長さにしてほしい3分以内がいいでしょう。まず最初に取り組みたいのがふるさと、夕焼け小焼け、赤とんぼ、ちょうちょうなどです。

第4 3度奏法を身に付けましょう。

生演奏で効果的な奏法が3度奏法です。演奏そのものに幅が出てきます。演奏の途中で積極的に取り入れましょう。3度奏法についても合宿時に説明します。

第5 豊かな音量、包み込むような音色を目指す。

音量が豊かで包み込むようなまろやかな音色を出してこそ、いつまでも人の心に残ります。この音色を出すためにはハーモニカの基礎練習や持ち方、くわえ方、全体的なフォーム、ハンドビブラートが大きな鍵となります。

難しい曲を演奏できる人が、豊かな音量・包み込む・まろやか・・・この3つの要件を満たしているとは限りません。これらの3要件は技術的なテクニックとは別なところにあります。難しい曲はとてとても自分には無理と思っている人やハーモニカの経験が浅いと思っている人でも基本をしっかりとマスターすればこの3要件を身に付けることができるようになります。